

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小泉 陽	学校名	習志野市総合教育センター
実施学年	第5学年	教科	算数
単元名	速さ		

### 《学びを深めたいポイント》

台風の上陸という、児童にとって身近で切実な課題設定を通し、時間を求める必要感を高めます。既習の道のりや速さの学習と関連付けながら、数直線図や関係図といった数学的な表現を用いて、時間の求め方(道のり÷速さ)を論理的に考え、説明できる力の育成を目指します。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

#### 課題提示と意識共有

台風画像と課題をタブレットに配信し、「気づきメモ」で初発の感想や解決の見通しをリアルタイムに共有します。

#### 思考の可視化

「発表ノート」上で数直線図や関係図を作成し、自分の考えを視覚的にまとめさせます。

#### 相互参照による学び合い

グループワーク機能を活用し、友達の思考プロセスを随時参照できるようにすることで、自力解決を支援し、学びを深めます。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>1. 課題を把握し、見直しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時速 25km で 300km 進む台風が、千葉県に上陸するまでの時間」という、身近で切実な課題を把握する。</li> <li>・「避難が間に合わないと大変」「どうやって求めるのか」といった初発の感想や、「道のりと速さを使えば良さそう」「関係図や数直線図が使いそう」という解決の見直しをもつ。</li> </ul>	課題提示、気づきメモの記入と共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風の画像と課題文を全児童の端末へ配信。</li> <li>・「避難が間に合わないと大変」という切実な思いを「気づきメモ」で共有し、解決への意欲を高める。</li> <li>・「速さを求めるときはわり算だった」という既習事項を想起させ、関係図や数直線図などの解決の手立てをもたせる。</li> </ul>
展 開	道のりと速さを使って、時間を求める方法を自力解決し、比較検討する。	発表ノート、グループワーク機能による思考の可視化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「発表ノート」上で数直線図や関係図を作成し、演算 (<math>300 \div 25</math>) の根拠を明確にさせる。</li> <li>・グループワーク機能を活用し、思考が止まっている児童が友達の図を随時参照できるように支援する。</li> <li>・比較検討では、多様な図から「どちらもわり算を用いている」という共通点に気づかせ、一般化を促す。</li> </ul>
ま と め	時間の求め方を言葉の式にまとめ、適用題で理解を深める。	発表ノート(まとめ・振り返りの記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決の過程から「時間=道のり÷速さ」という言葉の式を導き出す。</li> <li>・適用問題(800km の場合)に取り組み、公式の有用性を確認する。</li> <li>・振り返りの視点に基づき、振り返りを記入。自分の学びの変化を言語化させる。</li> </ul>

《実践を振り返って》

SKYMENU を活用することで、児童一人ひとりの考え(数直線や関係図の使い方など)を即座に共有でき、個々の進捗に応じた支援が可能となります。特に「気づきメモ」の活用により、自力解決が難しい児童も友達の視点をヒントに解決の糸口を見つけることができます。児童の振り返りでは、「関係図を使うと何算かすぐにわかった」「数直線を使うと実際にどれぐらいになりそうか予想できた」といった前向きな意見が出ると考えます。ICT が数学的な思考を支える有効なツールであることを再確認できます。

※なお、本レポートは、実践を想定して作成したものになりますことを申し添えます。